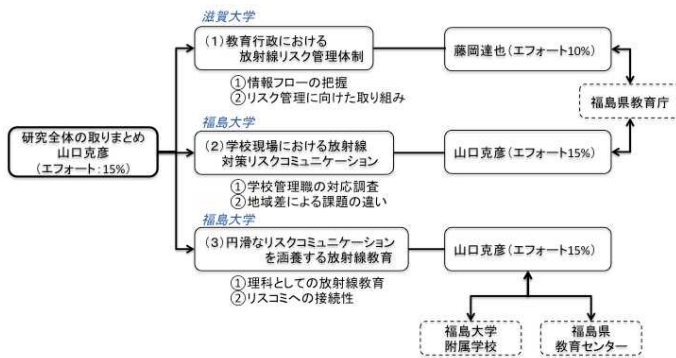


# 「原発事故に対応した教育行政・教育現場におけるリスク管理・リスク教育とグローバル人材育成」

## 1. 課題目標

福島県教育庁と協力し東京電力福島第一原子力発電所事故当時の教育行政・教育現場の動きを整理しリスク管理のあり方を見直すとともに、福島県内の学校現場において実施する研修を通して実質的なリスク教育の指針を立てることで、今後原子力発電所の再稼働が予想される地域への展望等、グローバル人材を輩出するための教育プログラムの実証を行うことを目的とする。

## 2. 研究実施体制と実施計画

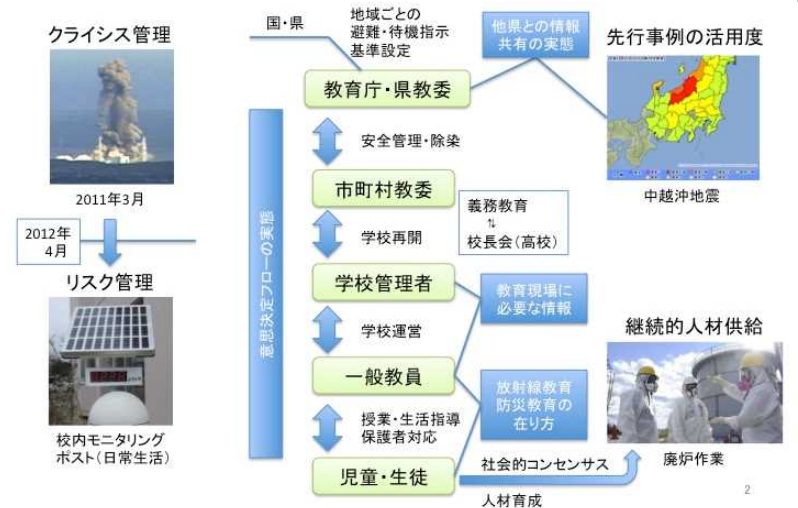


事業実施計画	2015	2016	2017
(1) 教育行政における放射線リスク管理体制	・教育行政文書の整理等による概要把握 ・教育におけるリスク管理項目の抽出	・情報伝達の評価と平常時への移行過程 ・リスク管理の実効性を高めるための施策	リスク管理体制の取りまとめ
(2) 学校現場における放射線対策リスクコミュニケーション	調査対象者の選定	聞き取り調査および事実性の確認	学校現場調査の取りまとめ
(3) 円滑なリスクコミュニケーションを涵養する放射線教育	・これまでの取り組みの整理と課題抽出 ・リスク管理と放射線教育との接点の抽出	・県指導資料活性化のための教材開発 ・活用事例集試行版の作成と検証	・リスコムへの接続性を伴う放射線教育の実践と検証

## 3. 研究内容

### 【概要】

原子力災害時においては下図のように教育機関の各レベルでの対応が迫られることとなる。本研究では福島県教育庁と協力し、東京電力福島第1原子力発電所の事故から現在までの福島県内の教育行政・教育現場におけるリスク対応の経緯を整理し、クライシスコミュニケーションからリスコムコミュニケーションに至る過程を明らかにするとともに、今後のリスク管理を構築する上での放射線教育の在り方を提示しようとするものである。



### 【各項目の概要と成果】

#### (1) 教育行政における放射線リスク管理体制

**【概要】**防災の観点から事故以前の教育現場における放射線リスク管理の実態と課題点を整理し、リスコムコミュニケーションの前提となるリスク管理を向上させるための指針を作成する。

**【成果】**平成27年度では対象地域における事故前の危機管理体制の実態について関係者からヒアリングを行うとともに、現在進められている放射線研修の実際について現地調査を行った。その結果、知識としての放射線教育に留まらない人権・道徳教育の必要性が求められていることが明らかとなった。

#### (2) 学校現場における放射線対策リスクコミュニケーション

**【概要】**福島県教育庁のリスク管理対応が実際の教育現場でどのように捉えられ、事故当時から現在に至る学校運営に反映しているのかを把握するために、学校管理職を主とした教員への聞き取り調査を行う。

**【成果】**福島県教育関係者名簿を元にして、各学校の校長・教頭を中心に震災時から現在までの異動経緯をリスト化し、次年度の聞き取り対象者の選定を行った。また福島県教委の下で進められている放射線教育の実践校の公開授業を調査し、ある地区では「廃炉に教育内容に差異が生じていることを確認することができた。

#### (3) 円滑なリスコムコミュニケーションを涵養する放射線教育

**【概要】**放射線教育の内容を精査し、教材を開発・活用事例集試行版を作成し、研究校にて授業を試行することで、その実効性を検証する。

**【成果】**福島県内の放射線教育の取組を調査したところ、小中高における実施内容とその接続性についての問題点が明らかになった。また、有識者との意見交換により事故直後のクライシス時における意思決定の重要性とそのためのマニュアルの有用性についての課題が浮かんできており、当時のマニュアルの有無と今後の作成の要否について併せて検討する必要性が明確になった。